

～輝きの子育て～

子育てアドバイス

「子育て」というテーマの中でいつも心にかかっていることがありました。

それは「子育て」という言葉の響きです。「育てる」というと、どのように育てたら良いかという「方法」と、何を目指してという「目標」が目の前に浮かんでくるのではという心配です。

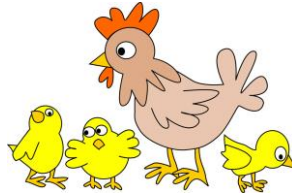
そして、その延長線上に英才教育や早期教育が見え隠れしそうだからです。

たしかに赤ちゃんは、大人が手をかけて「育てる」に違いありませんが、その前に赤ちゃんには自身で発育する力があるのです。環境から多くのことを吸収しながら、順序を経て一步一步、心や体が発達していきます。周りから手をかけられて育てられる存在ではありません。

日本の「育児」は英語では「ケア」に相当します。赤ちゃんを危険から守り、大人たちの健康的な生活の中で、発育を見守るという意味で使われています。

「育てられる」赤ちゃんより、「育っていく」赤ちゃんの目は輝いています。こういう赤ちゃんには、未来に向かって、いつも「無限の選択肢」が用意されているということを、最後に申し上げたいと思います。

「小児科医 巷野悟郎」より



自分次第

日ごろ、さまざまな人から耳にするさまざまな話を、お互いどのように受け止めているだろうか。

聞いた話を「なんだ、つまらない」と思えば、それはそれで終いである。しかし「なるほど、そうか」と感心すれば、それを自分の人生や仕事に取り入れるとか、新しい発想のためのヒントとして生かすとか、何らかのプラスが生まれてくる。

では、人の話に感心できるかどうかは何によって決まるのか。やはり何ととっても、話し手の上手下手や話の内容いかなんということが大きかろう。しかしすべてが相手次第かと言えば、必ずしもそうではなく、聞き手である自分次第という面もかなりあるのではないか。自分はすぐ「なんだ、つまらない」と片付けてしまった話を、友人が大いに役立てていた。そんなことに後で気づく場合が、少なからずある。同じ話でも聞く人いかに、受け止め方に大きな差が生じるのである。

風の音を聞いても悟る人がいるという。お互いにそれほどの境地にはなかなか至れないとしても、せめて人の話から、より多くのものを汲み取れる豊かさで柔軟な心の持ち主でありたい。そのための素直さ、謙虚さを日ごろから努めて養いたい。

「PHP通信」より